

## 編集後記

保健医療学雑誌 7 巻 2 号をお届けいたします。今号には、Original Article 2 編、Review 1 編、原著論文 2 編、研究報告 1 編、総説 1 編が掲載されております。

Tanaka 論文では疼痛に関する患者満足度との関連について述べられており、治療の重要性を改めて印象づける内容です。

Matsugi 論文では在宅ケアに有効な助言・指導を行う際に有効となる評価ツールのカットオフポイントを示しています。

Shigemori 論文では現在、世界中で研究が進められている認知症についてレビューされています。そして有酸素運動の有益性についてまとめられています。

大杉論文では認知症症状の自覚の有無が前期高齢者と後期高齢者との間で身体と精神機能において異なる傾向があることを明らかにしています。

三谷論文ではマーチング演奏時と自然歩行時の体幹・下肢の筋活動の違いについて分析し、自然歩行に比べマーチング演奏では力学的負荷が増大することを示しています。

河江論文では後天性血友病患者 1 症例を通じて、病態を踏まえた患者教育の重要性を示しています。

中田論文では近年、急速にそのメカニズムが解明されつつある半側空間無視の病態をレビューし、従来の臨床評価の限界と新たに開発された評価機器の紹介を自身の臨床経験からわかりやすく論説しています。

今年はリオオリンピック、パラリンピックで世界中が熱狂した夏でした。選手の頑張りに多くの感動と勇気をいただきました。そしてパラリンピックでは、人間に秘められた偉大な可能性に気づかされました。保健・医療に携わる我々にとって、日々の研究を通じてこの偉大な可能性を引き出すことが使命なのだと改めて感じました。

(2016 年 9 月 30 日)

編集実務担当

榎野 浩司 (関西福祉科学大学)